

「インドと日本の文化的適合性について」

米国公認会計士。税理士法人及び米系企業経理部門での経験を経て、2012年に南インドのチェンナイに移住し、現地でのコンサルティング会社を設立。中小企業の会計・税務アドバイザー等多くの支援実績を持つ。現在はベンガルール在住。



(1) 文化の違いに橋をかける

今回は日本とインドの文化的価値観の違いについて考察してみたいと思います。文化的価値観は、私たちが生まれ育った環境により私たち自身が少しずつ社会化されていくプロセスにおいて、無意識の中に刷り込まれるものです。無意識に異なる相手を色メガネ（＝バイアス）で見えてしまう根源とも言えるもの。ここでは、ホフステードの6次元モデルを参考に、インドと日本の文化において特に違う3つの次元である達成志向・不確実性の回避・時間志向についてご紹介したいと思います。

このモデルは、世界的権威のオランダの社会心理学者ゲルト・ホフステードによって開発された文化間比較のフレームワークです。異なる国や地域の文化を比較分析する際に用いられ、文化の違いを理解するための重要なツールとして世界で認知されています。なお、日本とインドそれぞれのスコアについては50が中間地点を表し、スコアが高いほどその文化的傾向が強いことを表します。

ホフステード6次元モデルとは

G.ホフステード博士の45年70か国以上のリサーチ実績に基づく文化次元
国民文化を数値で表し、文化を相対的に分析するためのツールです



(出所：CQ ラボのホームページ)

(2) 男性性 vs 女性性（達成志向）（Masculinity vs Femininity：MAS)

日本のスコア（95）：日本は極めて男性性の高い社会です。競争が激しく、（仮に体調不良や一定の不運に見舞われたとしても）設定した目標は必ず達成し、

個人の責任を果たすこと、そして、社会的に成功することが強く求められる傾向にあります。

インドのスコア（56）：インドは中程度の男性性を示します。競争も重要ですが、生活の質、家族との時間もそれなりに重視される傾向にあります。

(3) 不確実性回避（Uncertainty Avoidance：UAI)

日本のスコア（92）：日本は非常に高い不確実性回避指数を持ち、不確実性を脅威に感じる傾向があります。その脅威・リスクを排除するために計画性を重視し、形式やルール、規則を必要とする傾向にあります。

インドのスコア（40）：インドは不確実性回避指数が他国より比較的低くなっています。あいまいな状況や不慣れなリスク等の不確実性は日常において当然のことと考える傾向にあり、むしろその状況から創造的なアプローチを取ることさえも可能とします。

(4) 長期志向（時間志向）（Long-Term Orientation：LTO)

日本のスコア（88）：日本は極めて長期志向です。10年後、20年後の利益のために現在の利益を犠牲にする傾向があります。また、短期志向の強い人から見ると、「判断力がない」「決断が遅い」と思われる傾向にあります。

インドのスコア（51）：インドは長期志向も少し見られますが、日本ほどではありません。短期的な言動・成果も重要視される傾向にあります。

これらの文化的価値観の違いを理解し、インドで事業を行う際にもこれらの違いを理解した上で適切に対応することで、インドと日本間のビジネスの際に発生する可能性のある摩擦を最小限に抑え、より良い協力関係を築くことに一歩近づけるのではないのでしょうか。